

個人研究 授業実践記録 生徒が歴史教科書「で /を」考える授業 : Obamaは何しに広島へ？

著者	山田 耕太
著者別名	YAMADA Kota
雑誌名	筑波大学附属駒場論集
巻	57
ページ	115-129
発行年	2018-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00153551

授業実践記録 生徒が歴史教科書「で/を」考える授業
～ Obamaは何しに広島へ～

授業実践記録 生徒が歴史教科書「で/を」考える授業

～ Obamaは何しに広島へ～

筑波大学附属駒場中・高等学校 社会科

山田 耕太

要約

高校2年生必修の日本史Aにおいて、2013年度より教科書叙述を生徒たち自身が検討する協同学習を行っている。1班4名を基本として、次のような一連の活動を行わせている。1. 生徒たちが教科書を読んで抱いた疑問や違和感から問いを設定する。2. 調べ学習を通じて問いに対する見解をまとめ、その上で改めて教科書叙述について検討する。3. 3学期に教科書の修正提案を含めたプレゼンテーションと討論を行う。4. 新たな浮かび上がった課題について再検討し、レポートにまとめる。

本稿で紹介するのは2016年度2学期の取り組みである。3学期の個別テーマによる教科書叙述検討の前に、「核・被爆者の戦後」という共通テーマによる協同学習を行い、年間の取り組みの連動性を高めることを図った。

キーワード：授業実践、歴史教科書、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）、核・被爆者の戦後

1 はじめに

1.1 教科書叙述を検討する

本校では、高校2年で日本史Aを必修科目として配置している。学校教育で歴史を学ぶ最後の機会となる生徒も少なくない。理系進学者が7割程度を占める中で、受験即応の近現代通史学習のみを行うことに大きな意義を見出せないと考えている。そのため、2013年度より教科書叙述を生徒たち自身が検討する協同学習を行っている¹⁾。4名を基本とする(一部5名)班を各クラス10つ作り、次のような一連の活動を行わせている。①生徒たちが教科書(東京書籍『日本史A 現代からの歴史』)を読んで抱いた疑問や違和感から問いを設定する。②調べ学習を通じて問いに対する見解をまとめ、その上で改めて教科書叙述について検討する。③3学期に、教科書の修正提案を含めたプレゼンテーションと討論を行う。④発表と討論を通じて新たに浮かび上がった課題について再検討し、班で一本のレポートにまとめる。

このような取り組みを行っているねらいは次の通りである。

・多様な「歴史」をつなぐ

戦後の歴史教育・教科書の内容は、主に歴史学の研

究成果に基づいて編成されてきた。今後もその原則は崩すべきでないが、一方、歴史の授業が歴史学の成果を伝達するだけの場になってしまうのもよくない。歴史家の紡いできた「歴史」と生徒の見聞きし蓄えてきた「歴史」をつないでいく契機と位置づける。

・「共有財産」を学ぶ機会に

学問の作法、「学界の共有財産」を学ぶ機会にする。知識や概念を覚えることのみを目的とするのではなく、生徒自身が問いや仮説を立て、文献・資料を調べて検証する。さらに討論を行い、クラスメートとのコミュニケーションを通じて、より「妥当」な歴史像を描くことを模索していく。このような科学的な思考プロセスをふむことを適宜行う。当然、授業方法ありきではなく、何に基づき何を教材とするのか、何を学ぶのかということに基づいて授業を構築することが基本となろう。知識伝達型か参加型かという二項対立的に捉えるのではなく、状況に応じた授業方法の選択が求められよう。

・「教科書を／で教える」から「教科書で／を考える」へ

歴史叙述は歴史家だけが独占するものではもちろんない。生徒は「歴史」の消費者であると同時に生産者でもある(教師も同様)。高校生の「プロフェッショナル」として、歴史学のプロフェッショナルによる歴史

叙述、特に教科書叙述を批判的に検討し、自らが歴史叙述の主体だと意識する機会とする。

「主たる教材」の教科書に何が書かれるか（書かれな
いか）という問題に加え、教科書がどう使われるか、
およびそれを前提にどう叙述するかという問題も重要
である。「教科書を教えるのか、教科書で教えるのか」
という古典的な議論から一歩進み、「教科書で考える」
「教科書を考える」授業を生徒とつくっていく。生徒
の同年代の人々に広く使われるであろう教科書叙述を
検討対象とすることで、より多角的な視点で物事を捉
え、自らの考えを分かりやすく表現しようと強く意識
するようになることを期待する。

1.2 教科書叙述を検討する

以上のような考えにもとづき、前述の取り組みを年
間授業の一部に組み込んできた。具体的には、まず1
学期に、歴史教育・歴史教科書をめぐる現状の整理や、
各国のさまざまな歴史教科書の比較などを通じ、教科
書叙述検討の動機づけを行う。また、生徒たちに自由
に班分けやテーマ決めを行わせ、夏休みの宿題として、
テーマに沿った調べ学習と発表に向けたレポート（「仮
原稿」と呼んでいる）づくりを課す。一方、2学期に
かけて、主に日本近現代史をテーマをしぼって学習す
る（教科書の内容を最初から最後まで網羅することは
していない）。そして、2学期から3学期にかけては、
提出された仮原稿に対してコメントを送り、定められ
た発表日までに、「本原稿」と配布資料・説明資料を提
出させる。

このような流れで年間の授業を構成してきたが、2
学期までの教師主導の時間と、3学期の発表など生徒
中心の時間との連関が見えづらいといった課題が浮か
び上がってきた。その要因の一つに、研究テーマ設定
を各班が自由に行っているということがある。それぞ
れの問題関心や疑問に基づいてテーマ設定をするため、
必ずしも教師が授業で扱ったテーマと一致するわけ
ではなく、発表時の議論もあまり深まらないこともあ
った。しかし、生徒から湧き起こる疑問を大切にしたい
という思いから、研究テーマを教師の側で指定しない
代わりに、2学期までの間に複数回、共通テーマでの
教科書叙述の検討を、2016年度からは組み込むこと
にした。以下、設定した共通テーマのうち、最も時間
をかけて取り組んだ実践について紹介する。

2 それぞれの「戦後」

2.1 単元設定のねらい

2学期後半、「それぞれの戦後」と題する単元を設け、
主に核と被爆者をテーマに6時間の一連の授業を行っ
た。核は日本だけでなく世界の戦後史(第二次世界大戦
後の歴史)を見通す軸として有効であり、また、オバマ
広島訪問という時事問題とつなげることで生徒の興味
関心も引きやすいと考え、テーマに選んだ。

単元の指導目標として、

- 日本の戦後史、特に「核」と「植民地」に焦点を当
てることで、ナショナル・ヒストリーに回収されない
個の歴史、様々な「戦後」のあり方と今なお横たわ
る問題点について知る。
- 核や被爆者の戦後史をふまえ、オバマ前アメリカ合
衆国大統領の広島訪問の歴史的意義を考察する。
- 戦後補償問題に着目して、日本では今なお「戦後」
が強調されるのか、そして今後の歴史教育・歴史教科
書の方向性について考察する。

の3つを掲げた。次は、各時の学習内容と提示した主
な資料を一覧にした表である。

	学習内容・学習活動
第1時	核と被爆者の「戦後」① 内容：投下直後～占領期の原爆観の変遷、ビキニ 事件と原水禁運動、核の「平和利用」 資料：原爆投下に対するアメリカ人意識調査、NHK 「2015 原爆意識調査」、トルーマン大統領声 明、原爆投下に対する日本政府の見解、日 本学術会議「原子兵器の廃棄と原子力の有 効な国際管理の確立を望む声明（1954. 4）」
第2時	核と被爆者の「戦後」② 内容：ABC Cによる調査、寿命調査（LSS）、被 爆者援護法、「唯一の被爆国 日本」、核軍縮 の歴史 資料：ファーレル声明、日本政府代表「原爆被害 報告書」、アメリカ軍戦略爆撃調査団報告、 戦争犠牲者援護立法の推移、現行の原爆症 認定制度の概要（厚生労働省）、『映像の世紀 第8集 恐怖の中の平和』、クロスロード作 戦に参加した米海軍兵、核実験と核軍縮に 関する年表

第3時	<p>オバマ米大統領の広島訪問を考える①</p> <p>内容：大統領スピーチとトルーマン声明との比較、オバマ政権下の核軍縮</p> <p>資料：「オバマ大統領のルート」「核軍縮 機運見えず」（『毎日新聞』2016. 5. 28）、「自ら負った鶴持参」「成熟する日米同盟」（『読売新聞』2016. 5. 28）、原爆被害者の基本要（1984）、「オバマ政権の歩み」、オバマ大統領のプラハ演説と広島演説、「核兵器禁止条約、交渉へ決議採択 国連、日米ロなど反対」（『朝日新聞』2016. 10. 28）</p>
第4時	<p>オバマ米大統領の広島訪問を考える②</p> <p>内容：岩国から広島へ、「日米同盟」とオバマ広島訪問に対する沖縄の声</p> <p>〈グループ課題〉「オバマ米大統領の広島訪問」は歴史教科書に掲載すべきか？</p> <p>資料：岩国基地でのスピーチ、マリーンワンとオスプレイ、核のフットボール、沖縄・本土における米軍基地の現状、「戦後」沖縄の略年表、沖縄メディアの報じたオバマ大統領広島訪問（『琉球新報』2016. 5. 28）、「米核戦略と沖縄」</p>
第5時	<p>オバマ米大統領の広島訪問を考える③</p> <p>※教育研究会（公開授業）</p> <p>〈グループ発表〉「オバマ米大統領の広島訪問」は歴史教科書に掲載すべきか？</p>
第6時	<p>オバマ米大統領の広島訪問を考える④</p> <p>〈グループ発表まとめ〉「抜け落ちていた視点」在外被爆者の「戦後」から「戦後日本」を考える</p> <p>「韓国のヒロシマ」、在外被爆者への日本政府の対応</p>

2.2 核と被爆者の「戦後」

アメリカ軍による日本本土空襲とパンブキン爆弾演習、そして原子爆弾による攻撃が一連の作戦行動として実施された事実を押さえた後²⁾、核や被爆者がどのような戦後の歩みをたどってきたかを概観した（第1～2時）。

第1時では、1945年8月6日のトルーマン声明を読み、通常兵器と比較して強大な爆発力をもつ兵器として定義、放射能の排出や影響を無視、原爆の力を太陽や宇宙の原理と関連づけて普遍的なイメージを喚起、将来のエネルギー源としての可能性に言及などの特徴があることを確認した。第2時では、ファーレル声明やABCCの調査から、残留放射線とそれによる被害を無視・軽視する見方がつくられていったこと、それが被

爆者援護法に基づく原爆症認定基準のあり方にもつながっていくことなどを学んだ。

2.3 Obamaは何しに広島へ？

被爆者の「戦後」、核廃絶の動きなど基本的な事実を押さえた上で、2016年5月のオバマ前米大統領の広島訪問を考える授業（第3～6時）を実施した。以降、教育研究会で公開授業の対象となった2年3組の取り組みを中心に、実践の紹介と検討を行う。

2.3.1 第3時

まず、オバマ大統領がどのようなルートで広島にやってきて、平和記念公園や資料館でどの程度の時間をかけて何をしたのかを確認した。主要紙が一面にどの写真を選んだか、どういった報道を行ったかを比較しつつ、ノーベル平和賞受賞につながったプラハ演説と広島演説の読み比べ、トルーマン声明との共通点・相違点探しを行った。さらに、オバマ政権下での核軍縮の実績についても確認した。

2.3.2 第4時

オバマ大統領は広島訪問の前に、岩国基地で在日米軍兵士と自衛隊員に向け「日米同盟」の重要性を説くスピーチをしていたこと、米軍基地の集中する沖縄での報道（さまざまな被爆者の声を取り上げた記事を含む）を紹介した後、沖縄と米軍基地、核の「戦後」史を概観した。そして時間の最後に、次のようなワークシートを配布し、まずは個人で記入の上、提出させた。そして班内で意見交換をして、次時に班の見解を発表してもらう旨を伝えた。

高2日本史A 個人・グループワークシート[11月]

オバマ大統領は何しに広島に来たのか？ 核や被爆者、「日米同盟」を巡る戦後史をふまえて「オバマ大統領の広島訪問」の歴史的意義を考え、教科書に掲載するか否か、意見を述べよう。※これまで授業で扱った内容を材料にする(No.21～26)

・教科書の核をめぐる記述をふまえる

(個人の意見) 掲載する 掲載しない

理由

掲載する場合、何を？(視点・ねらい、使用する資料等)

(班の意見) 掲載する 掲載しない

理由(掲載の場合はその視点・ねらい、使用する資料等)

2.3.3 第5時（公開授業）

(1) ねらい

- ・戦中から戦後の核や沖縄に関する既習事項をふまえ、オバマ大統領の広島訪問を歴史的にいかに関心と課題意識を高める。
- ・教科書叙述（『日本史A 現代からの歴史』東京書籍）に関するグループ討議や表現活動を行うことを通じて、関心と課題意識を高める。

(2) 展開

時 間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項
導入 10分	・本時の活動内容を把握する。	・ワークシート[11月]を各班1枚ずつ配布する。 ・「オバマ大統領の広島訪問」の歴史的評価に関する各班の見解を発表するよう指示する。 ・発表用ボードを各グループに配布し、グループ討議の要点を書かせる。
展開 30分	・発表の準備をする。討議内容をまとめ、要点を発表用ボードに書く。 ・グループごとに討議内容を2分以内で発表する(10グループ)。 (1)掲載の可否 (2)取り上げる内容・資料例 (3)理由（現行教科書の内容をふまえる）	・発表用ボードには長々と書かずに要点がひと目で分かるよう工夫して書くように促す。 ・司会を行う。 ・各グループの発表後、黒板に発表用ボードをはらせる。
まとめ 10分	・ワークシート[11月②]に各自記入をして、グループ発表のふりかえりを行う。	・ワークシート [11月②]を一人一人に配布する。 ・特に印象に残ったものや、疑問に思ったものについてコメントを記入させる。 ・次回、コメントのまとめを配布することを伝える。

当日配布したワークシートは、次の2つ。

- ・ワークシート [11月] のまとめ
前時の課題に対する個々の意見を一覧にし、班の見解を理由と共に書き込むもの。
- ・ワークシート [11月②]

◇各班の発表と質疑応答をきいて、改めて問う。

（個人の意見） 掲載する 掲載しない

理由（共感した意見、疑問に思ったことなどもあわせて具体的に）

(3) 生徒たちの意見と発表内容

以下、各班員の意見と、発表内容を班ごとに紹介する。（掲載→○・しない→× 理由／何をどう載せるか）

1班

各班員の意見

- ・×謝罪の言葉がなかったし、訪問時間も長くなかったので教科書にのせるほどの出来事でもない気がする（もちろん広島訪問自体は良いと思うけど）。
- ・×来たことは評価できるが具体的に何かしたわけではないのでのせるほどではない。
- ・×いろいろ事情があったのに、10分しかまわらなかったとか謝罪しなかったことを感情的に責める人が出てくるから。
- ・×たいしてなんもしてないから。

班の見解：×

理由①オバマ政権で実際に減らした核の数がブッシュ政権と比べても少ない。核に対しての謝罪の思いがあるか疑わしい。

②アメリカの世論は、変わってきたといっても、原爆投下は正しいという意見は根強くある。簡単に謝罪すると国内の意見は厳しくなる。一方、被爆者の方は謝罪をしてもらわないというのがある。謝罪をという意見を持つ人は日本人の中には一定数いるので、教科書に載せてしまうとトラブルになりかねない。

③資料館滞在時間が10分。もっと知ってもらいたいという感情が日本人としてはある。大々的に教科書に載せるということをするまでのことではないと考えた。

2班

各班員の意見

- ・×現状として当時のように残忍な事件は絶えずおこりつづけているし、オバマ訪問によって何か変わるようなことはないと思うから。
- ・○今までと同じように、米国の責任については言及しなかったけど、原爆という出来事を悲劇ととらえて行動をおこしたことは重要な一歩だから。／オバマのスピーチ全文

班の見解：○

理由①いまの東京書籍の教科書は、原爆に対する現在の世論に関する記述が少なすぎる。教科書P.155では原爆投下直後のアメリカの一方的な情報しかあげられていない。オバマ大統領の広島訪問は賛否はあれ、日本の世論を見つめなおすよい機会と考える。対立する見解を比較することで貴重な学習資料になるだろう。

②核の廃絶に向けた展望がどれだけ開けているかを考える資料にもなる。オバマ演説の内容をトルーマン声明と比較すると、核兵器そのものについては否定的になっているが、使用と放射能障害に関するアメリカの責任には一切言及していない。オバマのノーベル平和賞受賞や今回の訪問には限界があるが、教科書に掲載することで、核廃絶に向けて今後どのような課題があるかを考えるきっかけになると考えた。

3班

各班員の意見

- ・×日本史として教えるべきものではないから。
- ・×この教科書では今までの米国の原爆に対する姿勢は十分に述べられていない。広島訪問だけ掲載したら唐突なのでは？今後核廃絶が進んだら、その過程に広島訪問があったと書くだけでよいと思う。
- ・×原爆投下の時からのアメリカの基本姿勢である「核は平和維持に必要」というものはかわっていない。広島に来たからその姿勢が崩されたということはないので、あえてのせる必要はないし、もし広島訪問が過大評価されたら、アメリカが核廃絶の歩みをゆるめそうだから。
- ・○アメリカが原爆に言及したから核に対する記述も原爆に対する記述もあまりないから。／オバマ演説の一部、演説している写真か抱擁している写真。

班の見解：×

理由①日本史で扱われるべき内容ではない。日本史上の意義がはっきりしていない。また、日本史の問題というより政治外交上の問題ととらえた方がよいと考える。

②現在の日本史教科書の原爆や核兵器廃絶に関する記述は少ない。そこにオバマさんの話を入れるとバランスが悪くなる。

③この出来事は核兵器廃絶運動という観点から考えると何の前進もなかった。アメリカは原爆使用が正当であるという見解を変えなかった、非人道的で戦争放棄に反するものということも認めなかった、被害者への謝罪もなかった。

4班

各班員の意見

- ・×謝罪もせず、滞在時間も短くて岩国のついでのような印象を受けた。
- ・×「ついで」で来ただけで実態は伴っていない(核発射スイッチ持ち込み、任期の残りの的にできることもない、謝罪なし)。無難な発言だと思う。それをのせる

のは教科書としておかしい(なにもしてないのにのせるのはおかしい)。

- ・○形はどうあれ、アメリカが何十年間も出てこなかった広島に来たということはそれだけでもとても重要なことだから。／今回オバマはあまりアメリカの非を認めなかったり、少し納得のいかない場面もあったが、それにはアメリカの世論などが関係していたりするから、アメリカが日本への原爆投下に対する意識がトルーマン声明のときから少しずつだが確実に変わっていることを特に強調したい。トルーマン声明とオバマが来たという事実だけ載せればよいと思う。
- ・×オバマ大統領の広島訪問は、初の現職大統領の訪問として一定の意義があるが、教科書に掲載するにはパフォーマンスの側面が強すぎるのではないかな。

班の見解：×

理由 オバマ大統領の広島滞在時間は1時間未満で「ちゃんと見てるの?」。スピーチで「死が降ってきた」という表現で、アメリカの主体性や責任を感じさせない。パフォーマンス的要素が強いのではないかと感じた。オバマは任期が残っておらず実際何もできそうにないし、核の発射スイッチが入った黒い鞆も持ち込んでいる。教科書に載るということは「重要なこと」という誤解を与えてしまう。

心の一句「来ただけで掲載するほどすごいこと?」

5班

各班員の意見

- ・○まず大前提として教科書にはできるだけ多く事実をのせることが必要なので、掲載はする。しかし、オバマ訪問をあたかも歴史的“美談”であるかのように取り上げてしまうと誤解があるし、戦前にアメリカが連合国側(もちろん日本も)が何をやっていたかの方が中高生が知らなくてはならない事柄のため、その重さのバランスが崩れてしまわないよう注意しなくてはいけない。／少なくとも、このオバマ訪問の背景にある事柄については必ず正確に、客観的に触れなくてはならない。その背景というのは、歴史的なものも当時の社会情勢的なものも含まれている。歴史的背景というのは、例えばアメリカが原爆を投下した理由やその被害、戦後の原爆調査。社会情勢的背景というのは、例えばオバマの大統領任期が近かったということやアメリカ世論の変化。

班の見解：○

前提 教科書というのは来年、再来年ということではなく100年先を考えるもの。

理由①掲載せざるを得ないと考える。結果はどうあれ何十年にもわたって出てこなかった米大統領がやってきたことは非常にhistoricalなこと。

②載せ方については慎重な議論が必要。単に歴史的美談として、例えばコラムにのっけるだけなどではいけないと思う。原爆投下から71年間アメリカが取ってきた姿勢が誤解されてしまう恐れがある。歴史の中の71年間はほとんど一瞬。数百年後、私たちの時代を学ぶ読者が、アメリカ大統領が第二次世界大戦終結「直後」に訪問したと受け取られかねない。そのようなことを回避するため、戦争が終わってから具体的に何があったのか、例えばトルーマン声明、ABCCによる非人道的な調査、戦後の原水爆実験とアメリカ世論の動向、その上で2016年アメリカ現職大統領の広島訪問が平和的に価値のあるものと記述すればよりよい歴史教科書になるといえる。

6班

各班員の意見

- ・○広島の人びとはきてほしいと思ってよんだわけであるし、戦後長い時間がたってようやく達成したことであるから掲載すべき。／オバマがプラハで言ったこと、広島での演説、核の発射ボタンを持っていたこと。
- ・○オバマの広島訪問は謝罪や核廃絶などをしなかったものの、米大統領初の広島訪問で、アメリカの原爆投下への世論の変化を物語るものであるから。／オバマ大統領の広島訪問の概略と、アメリカの原爆への世論の変化(トルーマン声明との比較を含めて)。
- ・○現職大統領が訪問した事は「核なき世界」、「戦争で亡くなった人に対する追悼」への大きな一歩(この一歩は小さいが人類にとっては偉大な躍進だ)。／核なき世界を目指していること、一方でいまだに核は世界に多いこと、亡くなった人々に思いをはせること、訪問は短く謝罪はなかったこと、抱き合った写真を掲載。

班の見解：○

理由①アメリカ現職大統領の広島訪問は長い間被爆者の方々が望んでいたこと。このことそのものに歴史的意義がある。

②大統領が初めて被爆地を訪れたということは、アメリカの世論が多少なりとも変化してきたことを示す。謝らなかったということもあるが、ある程度の世論の支持がなくてはできなかったの、ある程度被爆者に思いを寄せてもいいのではないかとこのように変わってきているのだと思う。

掲載内容は対面の写真、演説とトルーマン声明との比較からアメリカの原爆に対する捉え方の変化。一方、訪問時間が短かった、謝罪がなかった、核発射ボタン持ち込みのことも含めて書き、核廃絶への道はぼくたちにかかっているんだよということも書けば、教育的に深めることができると思う。

7班

各班員の意見

- ・×歴史的には重要だが、一定期間寝かせる必要がある。今後のアメリカの姿勢を見るべき。
- ・○アメリカ大統領として「初めて来た」という事実だけでも記載すべき。アメリカとしても日本としても一つの出来事として扱うべき。載せないのは逆に裏の意図があるのでは、となる。／トルーマン声明とオバマ演説との比較(というか参考として)、その一方で沖縄での事件も絶えないこと、被爆者と触れた事実。
- ・×主観的な見方が強く出過ぎそう。撤回や謝罪を求めるわけにもいかないが、「解決した」書き方をすることはできない。／(載せるなら)事実を「訪問」とだけ、もしくは演説の全文。

班の見解：×

理由①「これは歴史的な日だ」という報じられ方に違和感を覚えた。何をもって「歴史的」とするのか。いま起きたばかりのことを「歴史的」とするのは、教える側の主観が入ってしまい危ない。主観をまじえずに教えるのは難しい。載せるとすればゆるぎない事実だけ、現職のアメリカ大統領が広島を訪問した、というような。また、絶対に写真を載せてはいけない。被爆者とアメリカは完全に和解したというような印象を与えてしまう。多角的に判断できるようになって初めて載せることができると思う。

②歴史というのは昔起こったことから今後どうしていくべきかを考えるのが重要。たくさんの資料を載せて考えるとうことも考えられるが、それには教科書は狭すぎる。

8班

- ・○核の悲惨さ、戦争の悲惨さを伝える上で、個人の声というものは読者の心に訴えることで効果が大きいから。／被害者の声。
- ・○オバマ大統領がアメリカ大統領としては初めて広島を訪れたことは、核廃絶への一歩として記されるべきであるから。／オバマ大統領は広島を訪れて演説をしたが、謝罪はなかったこと、核廃絶に向かって進みだしたが、まだ道のりは険しいことを示す。

- ・○アメリカの代表が広島に来たということは歴史的に見ても重要なことである。これまでの「原爆を落としたのは正しかった」という立場が変わるかもしれない、という節目として、教科書には載せるべき。／今までのアメリカの立場と比較する感じで。スピーチの中身も一部持ってくる感じで。

班の見解：○

理由①反対の意見の理由としてオバマは多くのことをしていないというのが多かったが、それはどうかなと思う。前の人たちが行ったことについて謝罪をということだが、それは難しい。例えば、科学部の後輩が試験管を落として割ってしまったとしてぼくが代わりに謝罪するかというところちょっと難しい。彼の場合は原爆を落としたのだから、重い腰をあげて日本に来てスピーチをしたというのは大事。

②ただし、載せるにしても「謝罪はしていない」とだけ書くのもよくない。何をもち「謝罪」とするのかは、文章によってはわからない。スピーチ全文を書くなどすればよい。また、写真を載せるのはよくないと考える。例えばこの研究会でまじめに参加している生徒の写真をとったとしても、向こうで全然聞いていない人が寝ているかもしれない。写真はメディアとして危険。アメリカ大統領が重い腰をあげて来たよという客観的な事実を書こうということにした。

9班

- ・○原爆問題に関する一つのイベントだから。／過去のアメリカの大統領が原爆投下に関してどう考えていたのかとあわせて、アメリカの姿勢を考える。
- ・○オバマのスピーチの矛盾を書く。／比較し、結局世界はどこへむかっているか。
- ・○アメリカの大統領が広島を訪れた。そのこと自体が意義深く、歴史の転換点になりうるから。／ここまでのアメリカの態度(原爆落下に関する)、オバマ訪問の意義(コラムとしてスピーチ抜粋)、核軍縮の話。
- ・○しらない理由がない。／オバマが言った(スピーチ)内容の抜粋など。

班の見解：○

理由①訪問自体の歴史的意義。謝罪がない、訪問時間が短い、核軍縮に果たした役割が小さい、政治外交上の意見をのせるのはよくないなどの意見があった。政治外交上の意見をのせるのはよくないというのは理解できない。政治的外交的な問題の積み重ねが歴史として載っているのが教科書。

②互いの立場を理解するというのが国際社会で一番重要なこと。オバマさんだつてアメリカのトップである以上、核ボタンを持ってくるというのは国内世論を意識した場合や有事の際どうすべきかを考えた場合必要であり、それは理解しないとイケない。

③アメリカでも若年層では原爆投下は正しくなかったという意見が半数を超えていて、特に女性と民主党支持者の間では7割になってきている。これから謝罪につながるかもしれないという、歴史の最高到達点として現状を書くということも歴史教科書にとっては必要なこと。原爆を投下した国の軍のトップが広島を訪問したというのは歴史的な意味があるため教科書に載せた方が良く考えた。

10班

- ・×オバマが有言不実行なので大して変化があったかどうかと言われるとそうでもないと思う。
- ・○このことはあくまでも「事実」であるので、掲載しない理由が考えられない。／オバマ大統領、安倍首相の演説内容をそのまま掲載し、このことに対し被爆者がどう感じたかについては双方の意見をのせればいい。
- ・×確かに米大統領が被爆地に訪問したことは日本にとってもアメリカにとっても重要なことだが、オバマ自身が核軍縮において何か大きな成果があると言われると疑問だし、スピーチの内容も核について曖昧なこととして言っていなかったので、わざわざのせる必要はない。

班の見解：×

理由①アメリカの現職大統領が被爆地を訪れたのは初めてだが、彼がアメリカの核軍縮に対する姿勢を転換させたかというところ甚だ疑問。アメリカはそもそも被爆者に謝罪していないし、今回も正しい正しくないということには一切触れておらず、かなり無難なことを言ったと思う。プラハ演説、核兵器禁止条約に反対。核の傘を大事にしているという矛盾した姿勢で転換点ではない。現状の最高到達点として載せるべきという意見があったが、書いたところですぐに塗り替えられていって、長い歴史で見たときに大した大事なことではない気がする。今はまだロシアとアメリカが核を巡って争っているうちは歴史的転換に来たということは言っはいけない。コラムとして「こんなことがあった」と2行くらい書いたら良いが、資料として大事にする内容ではないと思った。では、いつひと段落してするかというと、謝罪くらいはしてもよいと考えるが、まだ先は長いと考

える。

論点として、「歴史的意義」の有無、現状を知る、問題点を考える材料、多様な立場を知る、理解することの重要性などについて意見交換がなされ、オバマ訪広そのものについてだけでなく、教科書とは何か？ということについても議論が及んだ。期せずして、掲載するが5、掲載しないが5と半々に意見が分かれた。発表後、5分程度だけであったが、次のような質疑応答があった。

Ta : 「まずは(発表内容で誤解を招いたことを)謝罪をしたい。政治外交上の意見を載せるべきでないという発言は、最近の出来事については主観が入ってしまうから、紙媒体に載せることは危ないのではないかという意味だった。

質問は、オバマスピーチ全文を載せるといったが、英語で載せると僕なんかは苦手だからわからない。日本語で載せると認識がずれてしまうのでは？」

N : 「言語の壁はあるが、載せた方が良いと思う。でもそのあたりは課題。」

Ts : 「載せない理由。変なイメージを持たせないため、載せるとしたら事実だけ書けばよいという主張。これだけ複雑に絡み合っている問題を2行だけ載せると逆に矛盾が生じるのでは？」

I : 「今の段階で詳しく書くのはよくない。2行というのは短いかもしれないが、パフォーマンス的な意味も強かったと思うので長々と書く必要はないし、むしろ掲載しないのがよいと考えた」

(4) 研究会参加者からの質問・意見

Q①中学校で学んだことを高校で学ぶにあたり、つながりを意識させているか、させているならどのようにか。

②生徒に日頃から論理的に説得力のあるプレゼン・発表をさせるにあたって、日頃からどのようなことに留意しているか。

③アクティブラーニングでよく注意される点として「活動あって学びなし」にならないようにと言われるが、先生はそうならないようにどうしているか。

A①今のところ、中学で主に日本の前近代史を通史的に学び、高校で近現代史を学んでいる。高校では網羅的にではなく、例えば核や植民地などテーマを選びながら考えさせるような授業づくりを心掛けている。

②私の担当授業だけで力をつけさせているわけではない。中学から各学年・各教科の取り組みの中で、協働的な学びを積み重ねる中で培われている。生徒

同士で議論することを通じて行事や委員会などを運営することも役に立っていると考えている。

③歴史学という、学問の蓄積というものがあるので、歴史も何でもありじゃない、押さえるべきところというものがある、というようなことで授業を通じて生徒たちに感じてもらいたいと思っている。一方、私からの歴史観の押し付けになっては絶対にいけない。磨かれた材料を提示し、生徒が考え、議論する場を整えるのが教員だという思いで授業づくりしているつもりだ。

Q. 生徒は資料を鵜呑みにする危険性を多く語っていた。先生が提示した資料に対して反論するために、生徒自身が何か資料を持ってきていたか。新たな資料を持ってきているとしたら、それはどのようなものだったのか。

A. 今日に関していえば、彼らが新しい資料を持ってきたということはなかった。ただ、日常的に彼らは、教師の出す資料も材料の一つに過ぎないといった捉え方をしている。状況にもよるが、授業中に関連事項をスマホなどで調べることも認めているので、私の授業プリントなどを見て、その場ですぐ打ち間違いや変換ミスなど見つけて指摘してくれる。私が提示した材料の中だけで考えろとは言っていないし、彼らもそのようには捉えていないだろうと思っている。

Q. 生徒の中で、これは日本史というより政治の問題じゃないかとプレゼンした生徒がいたと思うが、私も同じ意見を持った。日米関係に関わる問題は国際関係論とか国際政治史という視点で見ていく必要があると思う。例えばオバマ外交からどういうインテリジェンスを組みだしていくかという視点、これは日本史だけの枠で見ているとなかなか見られないものもあると思う。日本の将来の方向性を決定するような場面に常にアメリカがいるという関係とは何なのだろうか、といったことを考えさせていく。それから、今後トランプに代わっていく場合、日米関係はどう変わっていくのか、といった所をディスカッションさせてもすごく面白いのではないかと感じる。教科書というのは、歴史事実として評価されて確定されたものじゃないと載せられない制約というのはあると思うので、今日の授業の素晴らしさを感じるとともに、日米関係の議論というものをもっと突っ込んで議論させても、この学校の生徒であればすごく面白いのではないかと感じた。

A. 国際政治的な視点での資料がもう少しあってもよ

かったかなというのはご指摘の通りかと思う。ただ、本当に複雑な問題で、長いスパンで考えないといけないテーマだと思う。今回は原爆という限られた切り口だったが、あくまで考えるきっかけになればよいと思っている。彼らの中で議論が深まり、国際政治的な視点も出てくるではないか。因みに、生徒たちも科目の違いを気にするが、私はこだわっていない。私の場合、どうしても歴史学的なアプローチになるが、政治など様々な視点で展開できればと思っている。

Q. 中学の授業でも同じで、高校の授業を見ていても思ったのだが、これだけオープンなクエスチョンを展開していて、最終的な評価をどう考えているのか、他の授業あつてのこの授業だったと思うが、授業をやるからには評価が付きまとう。どのように考えているのか。

A. 本校でも100点満点でつけるので、数値化しなければいけないのだが、意見の内容について評価することはしていない。材料に基づいて論理的に、その子なりに考えているか、取り組めているか、という所を見ている。ワークシートなどで、自分の考えを表現したり、考えを深めたりする努力をしているか、していないかで評価に多少の差をつけている。本当はやらないといけないのかもしれないが、授業ごとや単元ごとで、どのような力をつけさせたいかというねらいを予め設定した上で評価をつけるということは、今のところできていない。

(5) 助言者のコメント

研究会当日は助言者として坂井俊樹氏(東京学芸大学教育学部教授)をお招きして、コメントをいただいた。以下、紹介する。

一つは国際関係史の視点で考えることの大事さという指摘があった。その通りだと思う。例えば1班は、「謝罪の言葉がなかった」で切られてしまっていた。この謝罪の言葉ができないという背景を考えるというのは、やはり多面的な思考が必要なのだと思う。ただ、授業でやる場合は、事実からやっていくということが基本である。そして、教師が教えたいことを教えるのではなく、子供たちの発言の中で出てきたものを拾い上げて、もうちょっと意味を聞いたり、議論をしたり、わからないことがあったら調べたりといったプロセスを大事にするのが求められる。教師が勝手に国際関係を大事だと教えることが本道ではないだろう。

大事なものは、ひとつは当事者性をどう考えるかということ。ちょっと残念だったのは、日本を相対化でき

ないこと。全てアメリカ側の問題で言ってしまうている。オバマのことに焦点化されているのだが、日本の加害性の問題ということも相対化して考えておかないといけないのではないかと。

一方、教科書に載せるべきか載せないべきかという議論の仕方はすごく面白くて、歴史の教科書とは何かということに行きつく。例えばオバマを載せた場合、後世の人が暗記する事項になるかもしれない。歴史の教科書っていったいどういう観点が大事なの、という議論も深くいけば可能なんじゃないかと思った。歴史というものを見直したときに、どういう選択がされ、どういう価値観だとか、どういう意味が切り捨てられているのか、ということを考える契機として、授業があるのではないかと思う。

あと、題材にも依るのだが、先生は意見を言うてはいけないのかということ。先生が権威的だと、「先生がそう言っているんだ」、「テストに出るんだ」ということになってしまう。そうではなくて、先生を相対化できれば、「先生、何言ってるんだ」ということになってくる。先生自身も議論に参加してみると、より面白かったかなと。非常に勝手な意見だが、これからの教育は、先生が一步下がるのではないのではないかと。民主的な公共的な空間が成立していれば先生も参加でき、批判対象になることもある。そうすると、ちょっと歴史の授業も変わる側面もあるのかなという思いもした。

2.3.4 第6時

前時のワークシート②に対し、どのような意見が出たかを紹介する。

1班

- ・○“現状を知る”ということは重要だと思った。事実を全て掲載し、それについて考えさせる授業は生徒に原爆問題について考えさせるいい機会になると思う。
- ・×初めて核投下してから70年。その頃から工業技術は明らかに上昇している。正直、今一つの核を作るのにそんなに月日はいらんんじゃないだろうか。すると「核保有数を減らす」という行為は戦力を実質的に減らすという意味は薄く、パフォーマンスの域を出ない行為であるはず。にも関わらずあまり縮小できていないのはアメリカ国民による圧力もあるだろうが…。
- ・×今回、10この班の意見をそれぞれ聞き、確かに掲載賛成派の意見で納得できるものもあったが、オバマ大統領が謝罪をしない限り、原爆被害者との関係が完全に元通りになるわけではないと思う。

- ・×外交上の問題は近代において即ち歴史であるという8班の意見は真っ当。かといってそれ全部のせるみたいな(5班)ことしたら教科書は広辞苑になっちゃう。それこそ7班がいったけど、時期尚早。
- ・×ただし、「核軍縮が進んでいないから」という指摘をするのは間違っている。北朝鮮、ロシア、イスラーム圏など、世界の脅威が取り除かれない現状を考えると、核が世界戦争の抑止力として働いていると思うので、米穀が核について謝罪をするのは世界情勢的には良くない。

2班

- ・○「時期尚早」というのは、「時が来たら必ずのせる」なのか、「時が来たらのせるか考える」なのか?
- ・○訪問したという事実のみで、それが歴史的意義としても、資料的価値としても大きなものだと思うから。オバマ訪問に誠意があったかどうかなどということは問題でなく、我々が考えるべきなのは今自分たちがどういう状況に置かれていてどうすべきなのか、ということだから。その意味を考える上で訪問という出来事について学ぶのは重要。
- ・○戦後71年ようやく現職大統領が来たということは被爆者たちがうれしい、待ち望んでいたなら、歴史的意義はあると考えられる。実際彼らにきいても良いと思う。
- ・○事実だけを客観的にかき、スピーチ全文を英語のままのせる。→きただけであっても71年間実際に来ることができなかったわけであるので、意義がある。さらにアメリカの立場、核廃絶についての「現状」を知るだけでも意義がある。

3班

- ・×時期尚早だと思う。また客観的に事実を書くために、媒体を選ぶ必要があるという主張はもっともだと思った。
- ・×改めて賛成意見を聞いたところ、「多角的な論議の下、載せるべき」だとか「現状を述べるべき」という意見であったが、教科書という、長い歴史をまとめて、学習の手がかりとする媒体にそこまで多角的な議論を述べるべきなのか?と感じた。また、これからの展望がわからない核問題において、この訪問により何かが変わるものではない。次期には全く逆の方向に進むかもしれないし、その逆かもしれない。それならば教科書の面積をとる必要はない。
- ・×掲載しないという選択も恣意的であるという意見にハッとさせられた。でもオバマが来たということのを年表にして載せることは果たして広島訪問を書いたことになるの?ならないでしょう。それなら書かなくてもよい気がする。

- ・×教科書を「資料的」に扱うのか、従来の「教科書的に扱うのか、によって違うのかなあと思った。今の教育では「教科書+資料集」で授業がされているので、これは資料集に載せれば良いと思った。やっぱり歴史的な意義はあったのかなあと思い直したけど、時期尚早はそうだと思うので、現状は資料集に載せるのがベスト。

4班

- ・×資料の一つとして掲載するとしてもレガシー作りであったり、米国世論の動きであったり、背景となるものが多い。若年層の原爆反対の世論が高まっているのなら、いずれ大統領が来なければならない方に傾くと思う。なぜ今来たのかという理由が分からない。
- ・×何もしていないのに、掲載すると「重要なこと」との誤解を与える。「客観的」「資料の一つ」という使い方を想定するのは良くないと思う。教科書が想定と違う使われ方をされるかもしれない。
- ・○原爆が投下されてから71年間でようやく表面上に形として現れたアメリカの歩みよりを掲載しないのは考えられない。掲載されて読み手に誤った認識を与えるのは教科書側の責任。
- ・×今回の議論における「教科書」は、主として日本の現行教科書を指していた。「多角的に考える材料として掲載する」という意見が複数見られたが、現行教科書の紙面のなかでは難しいだろう。そもそもの「訪問の意義」の評価に加え、「訪問について掲載する」ありきで教科書づくりをすることには、つくる過程で「多角的」な部分が省かれる危険性が含まれており、「教科書」そのもののイメージが変わらない中での採用は不適では。

5班

- ・○オバマ大統領が広島を訪問したこと自体は紛れもない事実であるから、意義が無くても大きな出来事である。
- ・○オバマが核廃絶に向けて具体的にとりくんでいないとか、滞在時間が短いとか、そんなことはどうでもよくて、「現職大統領が広島に来た」という事実がそれ自体で重要である。
- ・○アメリカ軍のトップであるオバマが「初めて」広島を訪問したことは、それ自体が歴史的意義である。
- ・○時期尚早というのは確かにそうだが、現状を知っているのも教科書として意義がある。謝罪をしていない71年間、広島への訪問が実現しなかった。今回パフォーマンス色が強かったかもしれないが、広島に、米軍最高司令官、現職大統領としての訪問という事実自体が、謝罪になると考える。核発射スイッ

チを持ってきたというのもパフォーマンス(米世論を意識した)であり、現在の国際社会において互いの現状を知り、関係を作っていくのが大事であり、このことを考えても、掲載すべきであると考え。

6班

- ・○教科書にきた事実のはのついてもよいと思う。できるだけ客観的にして誤解を生みにくい形にして、当日の行程や演説の内容などを書くのがいいと思う。
- ・○核に対する考えの変化を象徴する出来事であり、また米大統領が謝罪していないことや核がいまだになくなっていないことも課題としてあるということを示す面で掲載すべき。私たちの平和はいまだ、勢力均衡の原理と集団安全保障で守られているため、核爆弾は世界に存在する核爆弾の総量が少なくなるにつれて重要性が増すので、どうしても核爆弾の減少速度が遅くなってしまふことは仕方ないかもしれない。また、そもそも言語を通して伝える以上、どんなことにも(構造主義的な観点になるものの)主観が含まれるのは当然であるので、その論点はもう少し詳しく述べるべきだと思った。
- ・○4班が「来ただけですごいか」と書いたが、自分の生まれる前の人びとが行ったことに対して、お悔やみを言ったのはなかなか難しいことだと思う。9班の歴史的意義があるということに共感した。
- ・「教科書に載せるべき」ってそもそもどういうこと？「考えを深める」ためであれば、客観的事実を述べるべきだとおもう。「短い」とかも含めて。

7班

- ・×どの班もなかなか興味深い発表であった。
- ・×今後を考える材料としては有用だと思うが、それには教科書は狭すぎる。せいぜい年表に書くくらい。
- ・×世論をのせるべきという意見に対しては、いつも変わるからそこは載せるべきではない！色々な立場を考える上で訪広を書いてしまうと米国だけでも多くある世論が固定化されてしまうのでは？時期をおいて判断すべき。
- ・×政治外交上の話として価値はあるし、将来からみたときに歴史的意義もあるかもしれない。しかし、No.3のように、歴史は「絶え間ない論争が客観性を担保」するなら、また議論が熟してない「現在のこと」を歴史教科書にのせるべきではない。それはニュースの役割だ。

8班

- ・○現在の日本史教科書に載せる時、現時点の到達点として、核廃絶に向けた重要な一歩として掲載すべき。
- ・○そもそも「日本史」の教科書にのせるべきなのか。

こういったことがあったということは当然知るべきであり、教養であるから客観的である。日本史は必修でない所もある(?)し、20世紀のことは現代にもつながる問題が多くて日本史のなかの一部分として扱ってよいようなものではない。

- ・○オバマ大統領がたとえ実際に何もやっていないとしても、来たこと自体に意味があると思う。ただあまり詳しく書くべきではないと思う。
- ・○理由は発表した時と同様。「断固掲載！」という考えだったが、実際に発表してみると、自分がなぜ「掲載したいのか」よくわからない時もあった。

9班

- ・○そもそも教科書がどうあるべき(現状どういう存在であるか)を僕たちが知らない上に(日頃教科書を使われないから)、みんなの前提として、教科書は主観をはらむ可能性が高いというものがあるって、そういう中で、オバマの広島訪問に大きな意味はない、核軍縮に前進がない、だから教科書に載せる必要はないというのは変だと僕は思った。現職のアメリカ大統領が広島を訪れてスピーチをしたという事実、それまでのアメリカの姿勢、現状、そういうものを提示して、そこから生徒が一人一人受け止めるというのが正しい姿だと思う。
- ・○「事実」として掲載しない理由はやはりないので、アメリカ世論を考えても、「広島に来た」ということだけでも価値はある。アメリカと日本の文化の違い(武器に対する考え方の違い)にも言及した方がよかったかも。
- ・○核軍縮、原爆落下に関する歴史の中で、アメリカ大統領という核の再考権限をもつオバマが訪れた意義は大きい。国内世論が複雑に絡んでいるなかで、現状アメリカとして見せられる最高の姿勢を見せてくれたと思うので、現状を理解する材料となりうる。
- ・○まずオバマが広島に来た時期を考えると、任期が終わる年の原爆投下日、つまり、彼が大統領として来れる最後の日、だんだん任期満了に近づくにつれ、大統領は自分のやりたいことができるかと考えると、オバマはある程度、世論(米)があれかと考えて、この最後の都市にでも自分がやりたかった広島訪問をしたと思う。これは非常に意味がある。

10班

- ・×キリが悪いのはよくないこと。
- ・○「掲載しても問題ない」と思う。オバマが広島に来たという事実←問題なし。その他←様々な視点での捉え方を偏りなく載せればいい。載せない理由として「訪問時間が短かった」などがあるが、それこと自体も事実として載せる場問題ない。余談だが、

鳩山元首相が韓国で土下座して批判を受けたという事実を見る限り、世論上「謝罪」に難があることがよく分かる。アメリカとして謝罪したからといって何の意味もないと思うし。

- ・×歴史の文脈としてオバマ訪問を捉えた時、つながりがあるようにはあまり思えないから。
- ・○核を使われた国に、核を落とした米国の大統領が訪れたということは大きなこと、また、短期的な成果を核軍縮という複雑な分野において求めるのは誤っている。載せ方：トルーマン宣言と比較、原爆についての意識調査。

生徒にも同じように全生徒の意見を紹介した上で、次のようなワークシートを提示した。

高2日本史A ワークシート [11月③]

◇3組の発表と議論で抜け落ちていた視点はないか？振り返ってみて気づくことがあれば指摘しよう。また、なぜ抜け落ちたか、あるいは落としたのかの理由も考えて書こう。

これは、研究会でも指摘があり、授業者自身も感じていたが、日本⇄アメリカという国家の枠組みを前提とした議論に終始していたり、日本の課題という視点が希薄だったりという課題に対し、自分たちの議論を客観視する機会を設けたいというねらいで取り組ませた。これに対しては次のような意見が出た。

1班

- ・のせ方について話していたけどどういう授業をするかも重要。
- ・戦争を経験している人としていない人の両方の視点が必要だと思う。
- ・当事者の視点(しょーがなくね?)。／外国目線(まあ日本人だし。もっと時間があればやってもいいんじゃない?)。

2班

- ・戦争を経験している人としていない人の両方の視点が必要だと思う。
- ・現実的にあるがままにこの出来事について教科書に載せることが可能なのか？何が載せられて何が載せられないのか？載せても大して意味がない部分だけを載せてもしょうがないし、部分的にしか載せられないことで誤解を生む恐れもある。／ひばくしゃへの心情。
- ・僕らが主観的だ客観的であるというだけでなく、被ばく者たちがどう感じたかという視点。

- ・戦争を経験していない自分たちだけでなく、経験している世代がどうとらえるかをきいたり考えないといけない。

3班

- ・被爆者の視点。また、米国内での世論変化等の背景。
- ・教科書はどうあるべきか、という視点は重要だったかも。今までは、細かいことまでいちいち書いてたら歴史年表とか専門書みたいな存在になっちゃうかな、と思っていた。教科書に必要な要素の価値観を共有しないと議論がかみ合わないままになる。
- ・オバマが到来したときの米国の反応への言及がない。／被爆者は納得したらしいが、オバマのスピーチに謝罪も入っていない。気になるところだ。
- ・被爆者の視点…議論が歴史的事実と教科書のありかたにおいてもりあがったので、そこまで目がいかなかった？また、一定の評価をする人もいれば批判する人もいたため、根拠としてつかいづらかったのでは？／オバマが来日したことへの米国の反応…資料不足？

知識がない。

4班

- ・教科書に載せるということはどのように教育的な影響を与えるのか。資料としてどのような価値があるのか。大統領としての立場。
- ・大体の否定派の意見の人たちは「教科書に載せる」→「後世に間違った影響を与える」と当たり前のように話していたが、その根拠となる視点を話さないと、間違った影響を与えるような特定の出版社が悪いということになり、教科書自体に載せない理由にはならない。過去の授業ですでにこのことを議論をしていて、彼らにとっては、自明の理になっていたことが要因であろう。
- ・スピーチへの評価について、「何をもって」評価すべきかや、「どのように」掲載するかには議論がなされたが、スピーチを評価する(しない)＝掲載する(しない)といった等号が暗黙のうちにあるように思われる。／また、原爆投下を「日米間」の話に矮小化しており、その点で「オバマ演説」の話法に乗った上での「議論」になってしまっているのではないかと。

5班

- ・のせ方について議論すべき。
- ・長崎にも原爆は落ちた。
- ・教科書の「使い方」はどうあるべきか。／のせる事項の重要性について(形式的なことのっているか)

など)。

- この問題に対して、この問題に全く関係のない国の意見、多少関係のある国の意見。

6班

- オバマの演説にどの程度の場所を割けるのかということ。その場所によって何を優先するのか。
- 教科書の客観性が論点とされたが、そもそもオバマが広島に訪問したという事実を載せるだけで客観的でなくなるのか(教科書に載せるという選択が主観的な方向に行ってしまうなら教科書に掲載しないという選択も主観的なものでは)。そもそも、核や原子力そのものについての議論も抜けているのではないか。
- 現代の事件でも主観を除いて掲載すること、第三者的な論調を用いることはできないかどうか。
- 国際社会からの反応。日・米のひとしか目がいってなさそう(まあ実際、論点としてはそれがデカすぎるから…)。

7班

- 他人を独善的と呼ぶ者が真に独善的であるという視点。
- アメリカが他の戦争を起こした国に対してどんな対応をとっていたのか。→広島への対応だけがクローズアップされている。日本の戦後、ということを考えているのでそうなるそう。→アメリカの戦後、から見ていけばまた違う視点になるかも。
- アメリカの日本以外の他の国に対する態度(原子力についての)。

8班

- 広島が「謝罪は今回はいい」って言ったからっていうのも謝罪がなかった理由だったんじゃないのかな?
- 原爆被害者の視点。ただこれだけではそもそも「歴史」なのか…。事件の「重要性」だけに目がいったのでは。
- これからの核開発における影響とか? / 日本、アメリカ以外の国から見たら何かあったのだろうか。 / 「アメリカが」「広島に」「来た」の3つのいずれかと、その意義に関してしか注目できていなかった。
- 「教科書」に載せるべきか否かの議論をしているのが大事で、此を見落としてゐる班の多き事、我困惑せり。

9班

- オバマうんぬんに関わらず、教科書がどうあるべきかの前提が違った。アメリカ人はオバマ大統領の訪問をどう考えているのかという視点。世界的にはどれくらい注目されたイベントだったのか。

- 日本とアメリカの“武器”に対する認識の違い。日本は武器を持つこと自体が悪。アメリカは自衛のために武器を持つのは普通(使うのは当然悪←必要悪?)。
- 国内の視点には触れたが、外からの視点には触れていなかった。互いの立場を理解する上で一定程度相手側から見ることは必要(オバマ大統領の発言も国内世論に配慮せざるを得ない) / 人道的見地からの意見も少なかった。根底としてみなされ、触れることなく前提として扱われ、話が進んでいたように思われるが、重要で触れるべきところであった。
- アメリカ側からの視点と影響。日本人として今回の訪問の明確な意図をつかみとれていない。

10班

- 海外からの視点。歴史の定義に立ち帰った方がいい。
- 謝罪の必要性についてのことが曖昧(過ぎたことに関して国家代表として謝罪する意味についてなど)。この点の是非を明確にせずに「謝罪もなかったし」という意見が出たのは論理的に不十分な気がする。
- アメリカの大統領訪問を様々な立場(世論、被ばく者、政府など)の日本人がどのように受け止めたのかを記述するべきだと思う。
- 中国などからの反応(世界からの)。原爆の扱い方が、日米間としての事柄としてしか扱っていなかったため。

このように、被爆者の視点、日米以外の国や国際社会の視点という指摘も生徒から出てきている。これらの意見そのものを材料にしてさらに議論をする代わりに、韓国人被爆者および被爆者援護の問題について補い、単元を終えた。

3 成果と課題

3.1 年間を通して

1~2学期の取り組みと3学期の取り組みとがうまくリンクしないという課題に対しては、共通テーマを設定してグループで作業・議論をさせたことで、個別テーマに関してのみならず、教科書に関しても一定の議論の深まりが見られた。概説の重要性は生徒たちも認めている(あるいは、教科書は「そういうものだ」と思っている)ものの、やはり今の教科書は多くの生徒にとって面白くない。教科書を読み込む作業そのものはあまり盛り上がらない。何を学ばせるか(何を書かなければならないか)だけではなく、どのように生

徒が学ぶかという視点を常に持つておく必要がある。歴史教科書「で／を」考える授業全体の検討については、また機会を改めて行いたい。

3.2 今回のテーマに関して

原爆という、本校生徒ならだれもがある程度の知識と関心を持っているテーマであったこと、オバマ米大統領の広島訪問というタイムリーな題材を扱ったことで、ふだんよりも多くの生徒が積極的に参加していたという手応えを感じた。

日本国⇄アメリカ合衆国、という国家間の二項対立的な問題としてのみ捉えないよう注意を払い、米軍兵士や韓国人、太平洋の島々の住民の被ばくについても触れたが、簡単な資料提示に留まったこともあり、生徒の中に引っかかりをつくることはあまりできなかった。また、「核」を切り口に戦後の日米関係史を見通そうと試みたが、全体像を描けるような教材の提示ができなかったため、あまりうまくいかなかった。

研究会後、個別に次のような意見もいただいた。

- ・国家を背負ったような視点ばかり。オバマ訪問を、涙を流して喜んだ被爆者もいる。被爆者の立場をどう考えさせるか。
- ・知的なゲームに止まってしまっていていやしないか。どこまで生徒を揺さぶり、当事者性を持たせられるか。

この2つはいずれも本校元教員からのものであり、本質を突いた指摘である。個別具体的な一つ一つの「歴史」を大切にしつつ、「歴史」の全体像といかにかかわらせるか。一つの方向性として、人々の生活史を軸に据えるということが考えられる。広島や、今回完全に捨象してしまった長崎、あるいは朝鮮半島や太平洋の歴史を、人々の生活の視点を重視しながら学ぶなかで、「核」の問題を扱い、それによって人々の生活、生き方がどう変質したのか、生活者の視点で歴史をとらえるよう意識する。例えば、そういったことが考えられるだろうか。

「軍事利用」「平和利用」問わず、核の問題は人類史の大きな課題であるし、新学習指導要領下の「歴史総合」においてどう学ぶかも重要な論点となるだろう。ただし、一般的にはこれほど時間をかけることも難しく、限られた時間でどのように扱うかも含め、今後も実践を積み重ねて検討を続けていきたい。

【注釈】

- 1) 詳細は、山田耕太(2016)「生徒が教科書「で／を」考える授業」『歴史地理教育』第849号。

- 2) 関連文献は、伊藤純郎氏(筑波大学教授)のご教示による。

【参考文献】

1. 遠山茂樹(1980)『歴史学から歴史教育へ』岩崎書店。
2. 子安潤(2017)「膨張する資質・能力論を教材研究ベースへ再構築する」『人間と教育96』旬報社。
3. 鳥山孟郎・松本通孝(2012)『歴史的思考力を伸ばす授業づくり』青木書店。
4. 加藤公明・和田悠(2012)『新しい歴史教育のパラダイムを拓く』地歴社。
5. 大堀宙(2015)「教科書を／で考える」『歴史評論』778号。
6. 水島朝徳・大前治(2014)『検証 防空法:空襲下で禁じられた避難』法律文化社。
7. 奥住喜重(1988)『中小都市空襲』三省堂。
8. 山極晃・立花誠逸・岡田良之助(1993)『資料 マンハッタン計画』大月書店。
9. 工藤洋三・金子力(2013)『原爆投下部隊 第509混成群団と原爆・パンプキン』。
10. 大野允子(2005)『ヒロシマ、遺された九冊の日記帳』ポプラ社。
11. 長崎市(1996)『原爆被爆記録写真集』。
12. 広島平和記念資料館(2007)『図録 原爆の絵』岩波書店。
13. NHK 広島放送局(2003)『原爆の絵 ヒロシマの記憶』NHK出版。
14. 木村朗・高橋博子(2016)『「戦後再発見」双書④ 核の戦後史 Q&Aで学ぶ原爆・原発・被ばくの真実』創元社。
15. 山本昭宏(2015)『核と日本人』中公新書。
16. 中沢啓治(2012)『はだしのゲン わたしの遺書』朝日学生新聞社。
17. 田中宏(2013)『在日外国人第三版——法の壁,心の溝』岩波新書。
18. 森重昭(2016)『原爆で死んだ米兵秘史』潮書房光人社。
19. グレグ・ドボルザーク(2015)「マーシャル諸島のひとびと—潮に逆らって戦う」『ひとびとの精神史 [第2巻] 1950年代』岩波書店。
20. 吉野直也(2016)『「核なき世界」の終着点 オバマ対日外交の深層』日本経済新聞出版社。
21. 奥田博子(2010)『原爆の記憶 ヒロシマ／ナガサキの思想』慶應大学出版会。

22. 奥田博子 (2015) 『被爆者はなぜまてないか 核／原子力の戦後史』慶應大学出版会。
23. 柴田優呼 (2015) 『“ヒロシマ・ナガサキ” 被ばく神話を解体する』作品社。
24. 広島テレビ放送 (2016) 『オバマ大統領が広島を訪れた日』ポプラ社。
25. 『現代思想 2016年8月号 〈広島〉の思想—いくつもの戦後史』青土社。
26. 前田哲男・林博史・我部政明 (2013) 『〈沖縄〉基地問題を知る辞典』吉川弘文館。